



まちの家計簿



令和4年度 決算報告

昨年度の決算が8月定例会議で認定されました。歳入・歳出ともに前年度に比べて増加し、いずれも令和2年度に次ぐ過去2番目の決算額になりました。

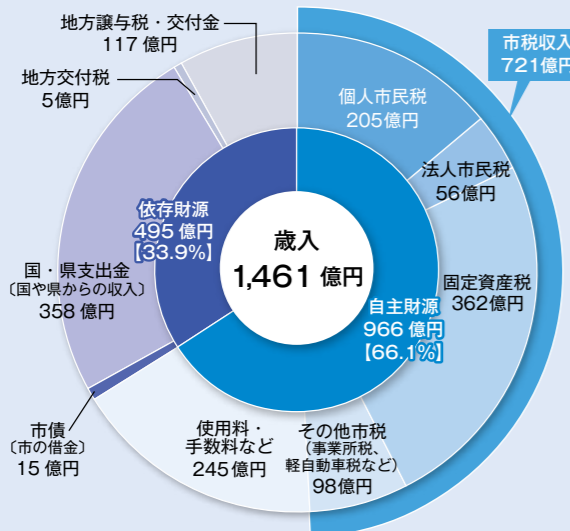
市民の皆さんに納めていただいた税金がどのように使われたのか報告します。

※数値は四捨五入のため、合計が合わないことがあります。

一般会計

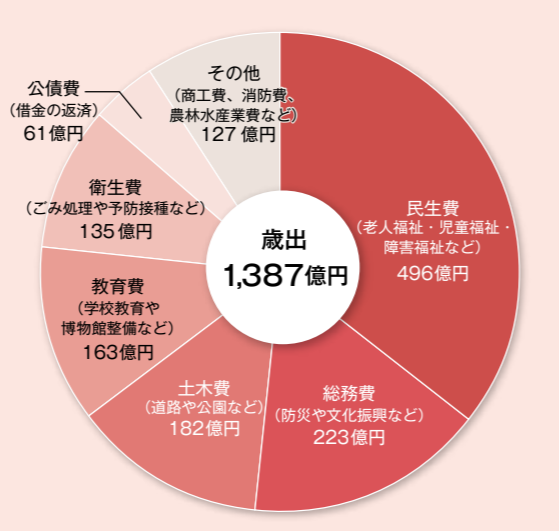
歳入 **1,461 億円** - 歳出 **1,387 億円** - 翌年度へ27 億円繰越 = **47 億円の黒字**

歳入 前年度比+23 億円 +1.6%



- ▶繰越金 +43 億円 +13.3% ...実質収支額の増加による増など
- ▶財産収入 +7 億円 +204.7% ...学校給食費を公会計化したことに伴う給食費収入の皆増など
- ▶国庫支出金 -37 億円 -20.2% ...子育て世帯や住民税非課税世帯などへの臨時特別給付金の減など

歳出 前年度比+66 億円 +5.0%



- ▶教育費 +49 億円 +42.6% ...学校給食センターの整備による増など
- ▶土木費 +15 億円 +8.8% ...近鉄四日市駅周辺等整備事業費の増など
- ▶商工費 +13 億円 +37.7% ...四日市市プレミアム付デジタル商品券事業の実施による増など

事業所税 (決算額38億円)

人口30万人以上の都市で、一定規模以上の事業所に課税する目的税

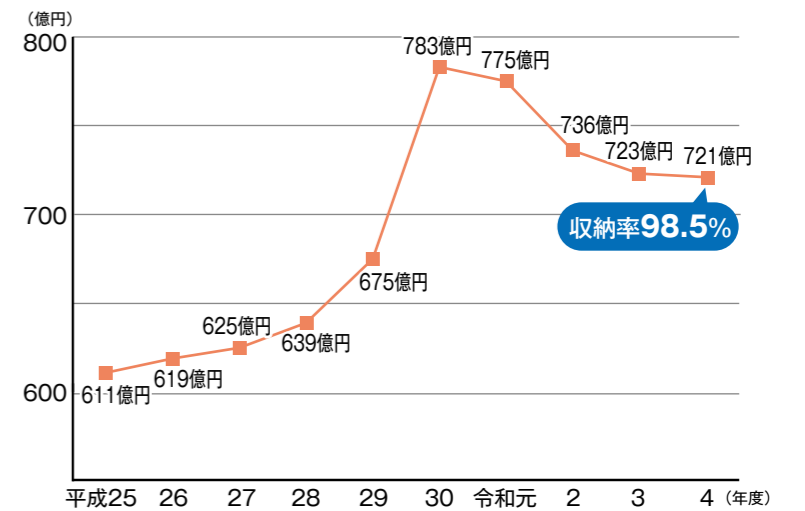
- 産業・生活道路などの整備 20 億円
- 小・中学校の改修工事など 16 億円
- 保育園の維持補修など 0.3 億円



富洲原小学校 大規模改修工事

市税収入の推移

市税は、市内法人による大規模設備投資などの影響で平成30年度までは増収が続きました。しかし、令和2年度に償却資産^{※1}の減価償却^{※2}による固定資産税の減収や、新型コロナウイルス感染症の影響による法人市民税の減収により減少に転じました。令和3年度以降も引き続き固定資産税が減収傾向にありますが、依然として高い水準を維持しています。



※1 会社が事業のために購入した機械や備品のこと
※2 償却資産を購入した年に全額経費にせず、使用する期間に応じて費用計上すること

特別会計など

特定の事業を行うために、一般会計と項目を分けて管理する会計

項目	歳入 (A)	歳出 (B)	実質収支 (A-B)
競輪事業	237 億 7,255 万円	222 億 3,435 万円	15 億 3,820 万円
国民健康保険	268 億 4,131 万円	264 億 4,017 万円	4 億 114 万円
食肉センター・食肉市場	7 億 6,118 万円	7 億 4,882 万円	1,235 万円
土地区画整理事業	5,365 万円	4,885 万円	481 万円
農業集落排水事業	4 億 7,193 万円	3 億 9,251 万円	7,942 万円
介護保険	235 億 6,841 万円	223 億 3,469 万円	12 億 3,372 万円
後期高齢者医療	70 億 9,190 万円	70 億 6,357 万円	2,833 万円
桜財産区	4,914 万円	260 万円	4,654 万円
合計	826 億 1,007 万円	792 億 6,556 万円	33 億 4,451 万円

公営企業会計

医療費や水道料金、下水道使用料などの料金収入で経営される会計

市立四日市病院事業

診療単価の上昇や外来患者数は増加しましたが、人件費や光熱水費も増加したため事業収支は赤字となりました。また、設備などのインフラ更新などを行う大規模改修工事に着手するとともに、医療機器も更新しました。

収益	237 億円	9 億円の赤字
費用	246 億円	

水道事業

給水戸数は156,860戸に増加し、事業収支は7億円の赤字となりました。基幹施設の耐震化、経年管布設替、経年施設の更新および水源の確保を図りました。

収益	75 億円	7 億円の赤字
費用	68 億円	

下水道事業

処理区域内戸数は118,991戸に増加し、事業収支は11億円の赤字となりました。また、汚水管渠の整備や、雨池ポンプ場、塩浜第1ポンプ場、大井の川ポンプ場の電気設備の更新、日永浄化センターの耐震補強工事などを行いました。

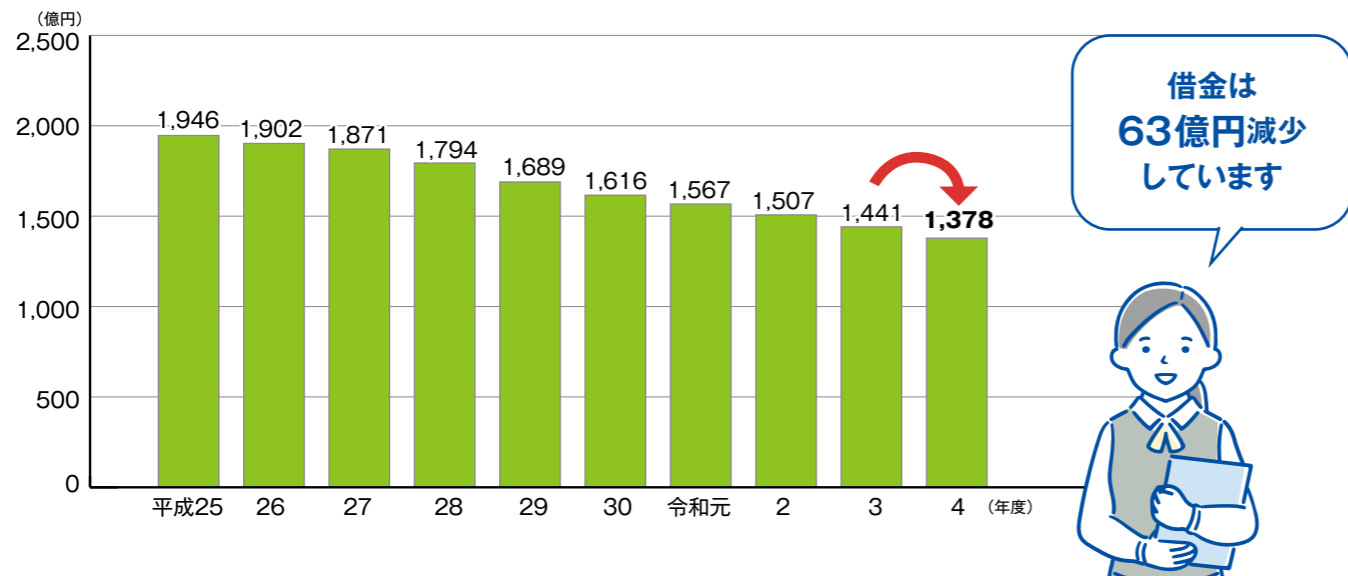
収益	154 億円	11 億円の赤字
費用	143 億円	

借金は減少 貯蓄は増加

市の借金(全会計市債残高)の推移

学校や道路など、長く使うものを作る場合は、世代間の公平性を確保するため、国や銀行などからお金を借りています。

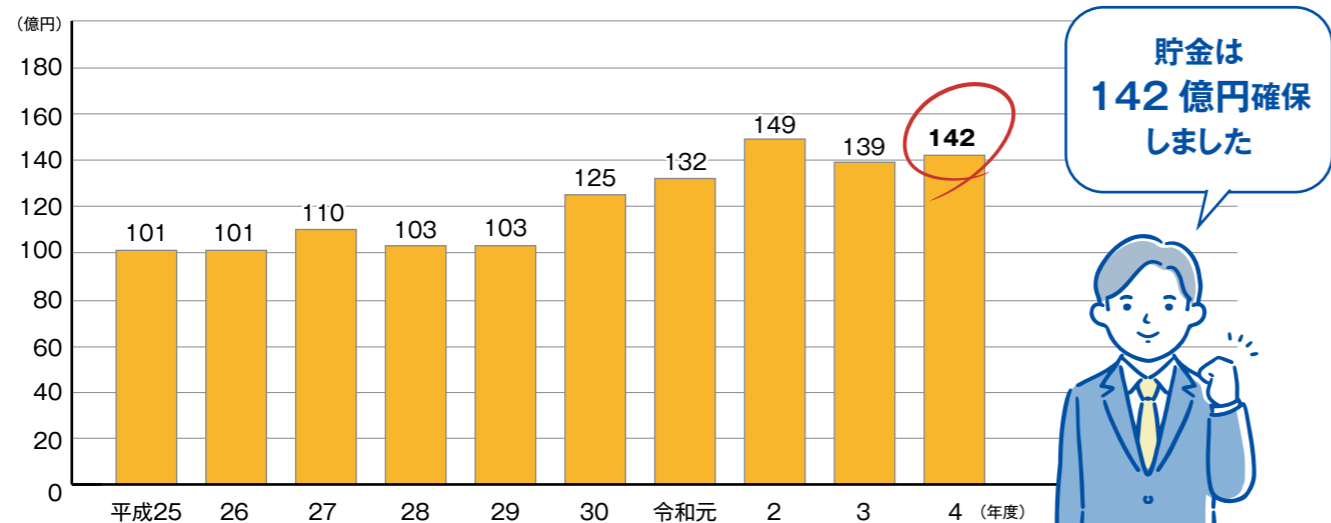
過去に発行した市債(借金)を順次償還するとともに、新たな市債発行の抑制に努めました。将来の負担を見据えて、計画的に市債残高を減らしています。



市の貯蓄(財政調整基金)の推移

災害などの不測の事態や景気変動による減収に備えるため、貯金(財政調整基金)の確保に努めています。

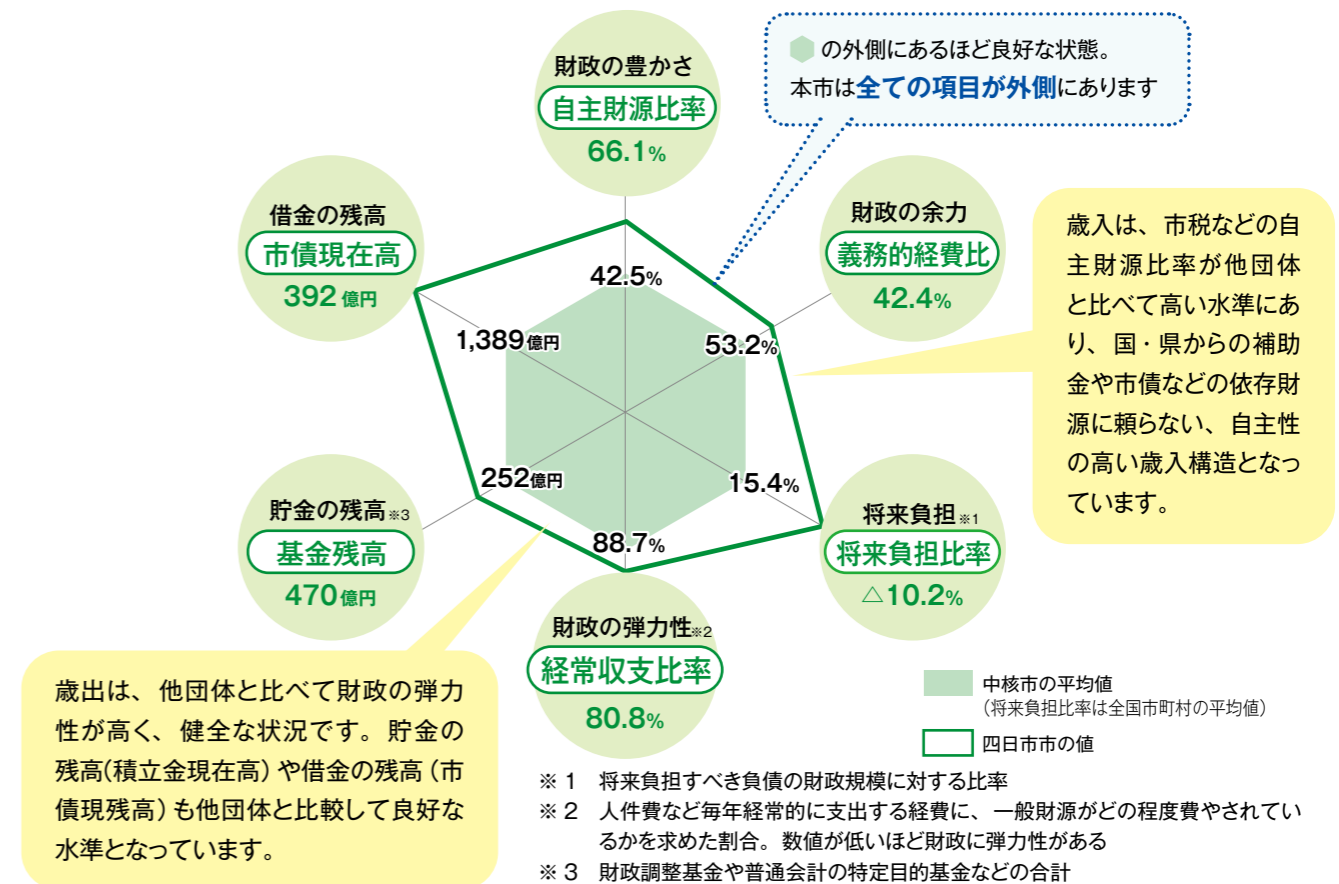
令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ地域経済の回復を図るため、プレミアム付デジタル商品券の発行などで取り崩しましたが、前年度決算の剰余金などを積み立て、残高を確保しました。



他都市と比べても良好 — 普通会計の財政指標 —

本市の令和4年度普通会計決算における財政指標を、地方財政白書などにに基づき、令和3年度の中核市や施行時特例市の平均値と比較しました。

※普通会計 他都市間との比較などができるようにした会計で、本市では一般会計に特別会計の土地区画整理事業、公共用地取得事業分を合算したもの



公共施設の大量更新問題

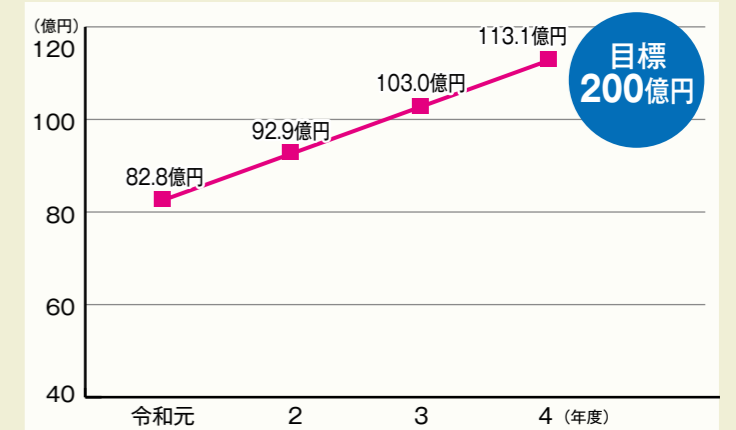
本市では、高度経済成長期以降に大量に建設された公共施設などが老朽化によって、十数年後から一斉に更新の時期を迎え、多額の財政負担が見込まれています。

将来にわたり健全かつ持続可能な財政運営を目指して、平成30年度に「アセットマネジメント(資産管理)基金」を設置し、小・中学校などの更新費用の将来推計に基づく積立目標額200億円に向けた計画的な積立を行っています。

日本全体の高齢化は2040年頃にピークを迎え、本市の公共施設の建て替えピークと時期が重なる見通しです。

市税収入が好調に推移している今こそ、できる限り基金の積み立てや市債残高の削減に努め、財政面から将来に備える必要があります。

アセットマネジメント基金



財政状況は健全 — 財政健全化比率 —

財政健全化比率とは

財政状況を判断する基準の一つとして、地方自治体財政の経営破綻を未然に防ぐために国が定めた**四つの指標**



実質赤字比率

一般会計などの赤字の割合

0% 赤字なし

連結実質赤字比率

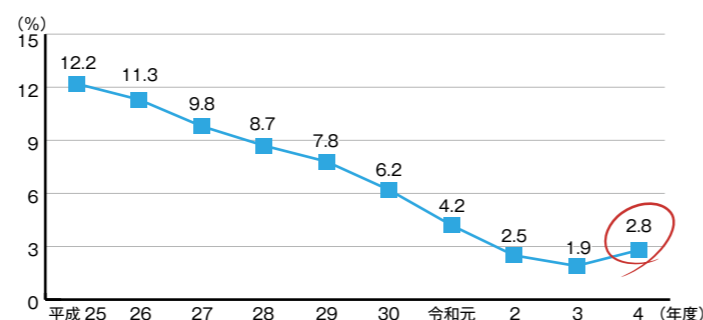
全会計の赤字の割合

0% 赤字なし

実質公債費比率

1年間の収入に対して返済する借金が占める割合

借金の抑制などにより近年は減少傾向でしたが、令和5年度からの学校給食センターの稼働に伴い、一般会計から繰り入れたことなどから令和4年度は増加しました。

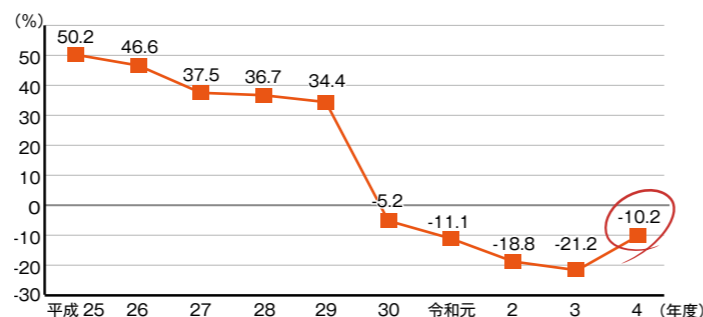


将来負担比率

借金や職員退職金などの将来支払う負債が収入に対してどの程度かを占める割合

一般会計などの借金残高は減少しましたが、学校給食センターの稼働に伴い、債務負担行為*により支出予定額が増加したことなどから、前年度より増加しました。

*将来的に市が借金を負担する行為



各指標の比率はいずれも基準未滿となり、**財政状況は健全**です。しかし、実質公債費比率と将来負担比率は、前年度の数値から上昇しました。

今後も、将来世代の負担を軽減するため、借金の抑制や貯金の確保などに取り組み、健全で持続可能な財政運営を行っていきます。

▶この他にも、民間企業の手法を用いた財務諸表など、さまざまな角度から本市の財政状況を分析しています。詳しくは、市ホームページをご覧ください。



令和4年度に実施した事業の例

四日市市学校給食センター整備運営事業 (30億1,716万円)



市立中学校全22校において、食缶方式による全員喫食の給食を開始するため、学校給食センターを整備し、令和5年4月からの開業に向けた準備を行いました。

【担当課：学校教育課】

四日市市プレミアム付デジタル商品券事業費 (21億7,236万円)



新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛や営業自粛により落ち込んだ地域経済の回復や、市内の事業者のキャッシュレス化を図るため、市内で利用可能なプレミアム付デジタル商品券を発行しました。

【担当課：商業労政課】

ICT活用による学習環境整備事業 (4億1,523万円)



インターネット回線の増強や教員用タブレットの1人1台の実現、個別学習教材の導入などの効果的な活用のために整備を行い、活用の幅が広がりました。

(※詳しくは、広報よっかいち10月上旬号特集を参照)

【担当課：教育支援課】

新型コロナウイルスワクチン接種・接種体制確保事業費 (22億523万円)



医療機関での個別接種と公共施設などでの集団接種により、ワクチン接種を実施しました。また、接種会場、医療従事者などの確保、コールセンターや相談窓口の開設、医療機関へのワクチンの配送などを行いました。

【担当課：新型コロナワクチン対策室】